

資料1 第4回青梅市中心市街地活性化基本計画検討委員会における意見について

要点	意見要旨
<p>(1) 基本理念について</p>	<p>○基本理念に“青梅宿”のキーワードが含まれることに対して違和感はないが、例として挙げられている基本理念は他の宿場町との区別がつかない。青梅の特色を強く打ち出した形容詞が含まれた基本理念が良い。</p>
	<p>○対象を明確にした方が良いと考えられるため、「市民が集える ゆったりゆったり青梅宿」を提案する。市民が集える環境がなければ、来街者がゆったりできるとは思えない。</p>
	<p>○基本理念は、青梅の特徴を据える必要があり、“自然”“歴史”“都心部にアクセスしやすい環境”と言った点は地方の都市とは異なる強みである。青梅のブランドを世界に広めていけるような基本理念になると良い。</p>
	<p>○基本理念を考える上では、マーケティングの思想が重要である。例えば、“いまだけ ここだけ あなただけ”といったように、ハンドメイドやオーダーメイドのものが揃う印象を強く押し出していければ良い。</p>
<p>(2) 活性化の視点について</p> <p>①商業に関連する取組について</p>	<p>○商業については、青梅の商人が引退しやすい環境づくりを行っていく必要がある。例えば、起業したい方たちに空き店舗を提供しやすいしくみづくりなどがあげられる。</p>
	<p>○起業者は、人口が増えてこない現状に鑑みると出店しづらい現状があるので、市として人口を増やす取組を進めていければ良い。</p>
	<p>○青梅宿の強みは伝統的・個性的な店舗があることだが、青梅宿の範囲は狭いので、地元の産物を他所で消費していただく、つまり地産他消(ちさんたしょう)の考え方で捉える必要がある。</p>
	<p>○空き店舗が活用されない理由として、出店する際の経費が課題としてあがる。例えば、実績がないと融資が受けられないなどの点もある。</p>
	<p>○現在青梅駅周辺の商店は、住宅と店舗が一体となっている構造が多いため、店舗を貸し出したとしても、双方にとって使いにくい状態であるケースが多い。</p>
	<p>○東栄会は、空き店舗を活用し、コミュニティ施設の設置に踏み込むことができた。空き店舗を活用する上で、空き店舗を押さえるタイミングと、そこで何を行うのかという点が上手に噛み合わなければ、なかなかうまくいかない、マッチングのしくみをつくる必要がある。</p>
	<p>○ものづくりのまちという経緯を活かして「本物の生活用品が集まるまち」をキーワードとして提案した。弟子入り制度やものづくりを行いたい方を受け入れる体制をつくるなどして、技術の継承を求める方を積極的に青梅のまちに取り入れられれば良い。</p>

要点	意見要旨
<p>(2) 活性化の視点について</p> <p>① 商業に関連する取組について</p>	<p>○夕方、電車を降りたばかりの方は、少しの方がコンビニに寄る以外は、ほとんどの方がまっすぐ帰宅した。これは、駅周辺の店舗が開いていないということも一つの原因として考えられる。まずは歩いて買い物ができる環境づくりに努めなければ、人口の増加にはつながらない。</p> <p>○表面的には徹底的にアナログという視点で攻めるという考え方は良いが、裏側の部分はデジタル化して対応していかなければならない。つまり、まちなみは昭和レトロといったアナログな雰囲気があって良いが、地域を支える商店などの基盤についてはデジタル化しなければ生産性は上がりにくい。</p> <p>○都会的な河辺駅とは異なるにぎわいを創出するために青梅駅が目指す方向性として「歩いて楽しめるまち」「徹底的にアナログなまち」「エコなまち」「ゴミが出ないで買い物できるまち」「着物を着て遊びに行きたくなるまち」などを提案する。</p>
<p>② 住環境（自然環境・福祉等）について</p>	<p>○知人への簡単なヒアリング結果として、青梅は良いまちであると捕らえている方が多く、理由としては、車ですぐに行ける範囲に日用品を購入する場があること、自然が豊富だが田舎過ぎず都心にアクセスしやすい場所であることなどが挙げられる。</p> <p>○青梅は自然が素晴らしいという点が特色であるので、キーワードに取り入れていただきたい。</p> <p>○若者から高齢者まで幅広い年代層が住むことのできるまちでなければ長期的な活性化は望めない。従って、「健康」「環境」「福祉」をキーワードに取り入れられれば良い。</p> <p>○青梅駅前の再開発を考える会は、生まれてから死ぬまでの生活を青梅駅周辺で完結できるようなまちづくりをするということを再開発の理念として捉えており、再開発を行うにあたっては、主に高齢者にスポットを当てて取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○来街者を増加させる視点として、昭和レトロなどの取組は継続して実施していくにしても、新しい観点で来街者を呼ぶ方法を考えなければならない。</p> <p>○駅前にまず講じる対策として、緑を増やすということを提案させていただく。青梅の駅前に魅力がまとまって凝縮され、そこからまちなかへ興味が広がっていくようになれば良い。</p>
<p>③ 歴史・文化の活用について</p>	<p>○津雲邸を文化の発信拠点としていければと考えているが、津雲邸は個人の所有であるため、市で買っていただき活用できれば良い。一点目の活用策として、青梅宿の滞留空間として来街者のおもてなしの場、二点目は歴史と文化を紹介し、伝承する場、三点目は地域のコミュニティの場として活用するといった3つの柱を考えている。</p>

要点	意見要旨
③歴史・文化の活用について	○旧ほていや玩具店店舗の周辺は、看板建築がいくつも残る歴史的にも重要なまち並みとして評価されている。こうした昭和の古いまち並みも含めていただければ良い。
	○青梅の名の発祥である金剛寺や梅岩寺の桜は観光の軸になるので、こうした資源の存在を踏まえて「個性のある魅力的な店舗の充実」「交流とにぎわいの創出」の範囲を抽出していただきたい。
	○青梅総合高校には立派な講堂があり、これをアート作品の展示などに活用できないか。回遊環境の向上という点を考慮するのであれば、青梅総合高校の講堂や繭蔵、織協などを結ぶルートとして、東青梅駅からのルートがあっても良い。
	○青梅大祭の魅力を祭事以外でも楽しめるようにするため、山車などを普段から展示し、観光客に見ていただくという方法もアイデアの一つとして提案する。
	○ぶらり青梅宿では、津雲邸にて山車の人形を展示できないかと考えている。人形の保存状態も考慮し、町会単位で交代しながら展示し、観光客に楽しんでもらえればという考えがある。
	○青梅街道が都道であるため、規制が難しく、関係者はこれ以上人が集まったら必ず事故になるとの不安を抱いている。南側のバイパスが整備されない限り、改善は望めない。
	○歴史だけではなく“文化”というキーワードも取り入れて検討していただきたい。
	○青梅宿の歴史を踏まえると、当時のように地のを売る場所、地のをを使った料理が提供できる場所があると良い。また、青梅は市名に唯一“梅”がつくまちとして、青梅を売り出すブランド品が確立できれば良い。
④交通アクセスについて	○車を使わなくとも住みやすいまちになれば魅力的になるのではないか。
	○駐車場がないという意見があがったが、実際に十分な数の駐車場は整備されている。しかし、青梅街道から離れた場所にあるなど、使い勝手が悪く、駐車しにくいといった点が大きな課題として考えられるため、駐車環境の改善にあたっては、駐車場の配置整備などが求められる。
	○公共交通によるアクセスの向上といった点について、郊外の駐車場からまちなかへバスで移動するパークアンドライドも一つの手法として提案させていただく。

要点	意見要旨
⑤その他	○まちの中心となる広場を起点に、まちを回遊できるようになれば魅力的な中心市街地になる。
	○まちなかに広場をつくるという案は、実際問題として難しいのではないかと。しかし、車で訪れた際に安心して止められる場所があれば、広場創出の可能性も出てくる。
	○青梅は、東京に住むといったステータスを満たすには海外の人でも比較的住みやすい環境にあり、こうした方をもてなすといった姿勢も重要である。
	○人口が減少傾向にあります。この点について対策を練らなければならない。右肩上がりには難しいかもしれないが、現状維持を努めていく必要がある。
	○中心市街地だけに焦点をあてて人口を増やすことは難しく、青梅市全体として人口が増加すれば課題の解決に結びつくとも考えられますが、こうした点を課題として検討していかなければならない。
	○市内から市外に住まいを移された方、もとより青梅市外に住んでいるが青梅に魅力を感じている方などを含めた会員によって構成されている青梅ふるさと市民の会が、まちづくりの提言などを行っている。外部の方の意見を引き寄せるといふ点も、まちづくりには必要である。
	○可能な限り基本的な理念や方針は具体的な言葉を用いた方がよい。